

## 熱狂

もちろんタイムスリップができるわけではありませんが、たまに小学生に戻りたくなるときがありませんか。というのも、小学生ほど、“わくわく”を体感できる期間は、他にないからです。友だちとの遠足、理科の実験、運動会など、無意識のうちに心が躍り、熱中した思い出がたくさんあります。初めての経験が多く、何か新しく知る喜びを純粋に楽しんでいることが一つの理由だと思います。小学生がそんな思い出を日記に書くと、「とてもたのしかった。」「とてもよかった。」などの単純な表現になる傾向にあります。小学生の知っている言葉が少ないというのがありますが、本当に心が躍り、熱中、さらには熱狂していると言えるほどの経験をしたとき、大人でもその時の心の高揚感を言葉で表現するのは、なかなか難しいのではないのでしょうか。

私が小学生のときから続けていることにサッカーがあります。大学でも体育会に入り、プロを目指しているわけでもない20歳を超えた大人が、週6日、ただ上手くなるためだけに本気で練習しています。そんな私に先日、大学サッカーにおける強豪校と試合をする機会がありました。関西リーグ3部所属の京大が、京都選手権という大会で、なんとかベスト4まで勝ち進んで迎えた準決勝。関西リーグ1部所属の立命館大学と戦い、結果は0-6の完敗です。しかしその時感じたのが「おもしろすぎる…」という感情です。立命館大学含め、1部に所属する大学は、小さい頃からプロの下部組織で練習し、今でもJリーグでプロとして試合に出ることを目標にする人が、何人もいるようなチームです。そんな個としてもチームとしても圧倒的に上手く強いチームと試合し、今まで体感したことのないようなブレースピードを肌で感じ、驚きと喜びで試合中に思わず微笑してしまうほどでした。まさに熱狂していた瞬間だったと思いますが、私の心の高揚感を言葉で伝えることは難しく、逆に「おもしろすぎる…」という単純な表現の方が、ハイコンテキスト文化の日本の方々には伝わるのではないのでしょうか。

小学生のときのようなわくわく感。言葉で表現できない心の高揚。熱中を超えた熱狂。タイムスリップはできないので、そんな幸せで充実した瞬間を未来に求め、私は今日も本気でサッカーと向き合います。皆さんも、熱狂を探してみてはいかがでしょうか。